

「地域課題分野」（平成30年度採択）

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
物部川河口部における洪水流による礫州の破壊機構と河口閉塞対策に関する研究	中央大学 竹村 吉晴	B
<研究概要> 物部川は急流河川であり、石礫で構成される大きな州（礫州）が河口を閉塞し、支川の排水不良や回遊魚の遡上・降河の障害などの問題が生じている。本研究では、物部川の観測史上二番目に大きな洪水となった平成30年7月洪水を対象として、詳細な観測データに基づき、洪水流による河口礫州の開口機構を説明可能な数値解析法を構築するとともに、河口閉塞の発生頻度低減に効果的な対策について検討した。		
<事後評価コメント> 河川地形の解析手法としては妥当であり、現象理解について有効である。一方で、河口閉塞対策については提案された手法を現地適用し、モニタリングすることを期待するとともに、礫洲の再形成過程のモデル化にも期待する。さらに、研究成果を対策に結びつけられるようにするために、今後、有義波高が大きい波浪の影響を考慮できる手法の開発が望まれる。		

※評価基準

- A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった。
- B：一定の研究成果があった。
- C：研究成果があったとはいえない。